烏羽屋實記

六

へ13
3382
6

へ13
3382
6

四冬谷
尾定

笠蔵榮

尾張藩御家記巻六

目録

一 吉宗御孝心を以て
附 吉宗御尾張御孝心
一 吉宗南の病年令を
附 吉宗御初之事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學出版部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

が為にしてこれを世に
ゆるしし郡中の
所領をもこい奇特に
つくべきいはれなきよ
所詮なくそこの所
ゆるされ
遠郡に今はひたすら
内系の代官

三郡おのおの所領
の間合をとりて
今をを示して河原上西
伊豆いまもつかも
為中の系とおるの
遠者をはなしをを
ひ一年をを
踏と云つまり半年の

よき男子なれは不敵にていさみ
業はさらにへし保ふしし只有
あさしやうはまきして修行じ
まゐよ調伏てし座へつきりて
ぬりよ念しまゐつしやけまぞ
書と紗さやうなまいはなくまで
ありがたくよ念にんし納受し
て彼出しくる念をば本ひ慮よ

おさめてことかしこんとまず併庵は
心中よりみづがいしくるの
念とは梅よくへうんツづき無利
せ兜の念の心なりけるも自ら
感じまうては幸ひにおかるし：
すのもと霊の山に入ありけると
高ねさうよ念しまた万善人
魔のさまく万一般りなつむ

なくはきこゝろざしばしとて怪々
も怒りし浪方なりしと忽ち
獄舎と発しく者しかるを偽
かくしてゆくりにまとゆしめち
教まくは梅へ釜んといひし
じ暫時も指手しくさく犬
病の時し覚りふうちおて
おくまとう知りていまの毒手なく

こゝり竹角含まくも其奉
の事あきいわくへ約く
みくとのへ庭し業けり矣
張右の業あれいまを調屋
しく紀へし修しく結て
みしまとし当め気てゆふし
と拶拶をつひ詫を後ひて
おかろう重ろくは桜の内

よ色(いろ)しき日くと家(まり)の五文(とちう)り
おもふよし少くしも兄(あに)もう汲方(れとく)も
好きさ築(ちく)とく凋(てう)居(ちう)せんてまふとん
と常(こころ)安しく己(おの)きう家(りへ)の裏(うら)
へ亡(こころで)小用(こよう)をしあふし荒(くら)へ
辰(じ)ぬらうそうしわもちきぬる
坦胡(こうず)へ表しるは小便(せうべん)をとうさ
みけしろ仹属(いけん)大きこうおもしろさ

坦胡(こうず)は小便(せうべん)をとるとさい
陰(いん)茎(こうかう)必しきてたまうしふうす
好り洗しつく去(や)しんとかの姫
胡(すけ)をおさへゆくうのよ酒(うらめ)て
ゆうしひくうう案り洗ひろく
猿(ゑう)いきの去(つら)を結(のど)しばこうさし
かくれいあひ包(こころ)判しらしきなが
らも毎しくまのまおくつくし

しかふみふ年よひ付るハ
蜈蚣ハ毘沙門に御使もあり
といふ事なし仰ぎ崇めしも
是のかミ天神地神の御かね
まなふとこ所あり花縁しとその
まつらつふましとしらせう
とかくへいろしく草にぬる
はい無しぬまゝの事ならめや

毒の虫なくまし三両の合に
抔のまゝこの蜈蚣を枕引
つゐへちところてさなしく
形し鞍りのもとし工夫を
なしおもふ其所様なしなり
ちらしてかはらせはやく捜
せい文に程てゆかしと目の匹
を津て年魔かちは怪かん

秘とぞちとてさとりてこそ
乃しとり乾しとを三ツ四ツ家ら
てら刻して三帖なりしの菜し
さりのとこうらくれちこころされを
いまじ天下誹諧の楼ろ
名数はりまもと志しは斗ら
ばかり俳諧の則のごとくおもひ
はかしい偏に天の[illegible]にして

このまゝ今すつく世の人誹諧
を専しすうひく隠遁[illegible]
発句さなる事神のごとし[illegible]
人の知りとしつ好りあまさ
俳諧は古しへのむかしや
ゆへに誠しやうはさとりの葉
一帖よ乃三巻入て[illegible]
[illegible]ものいでしころ[illegible]を春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ノ郡ノ内で第一高郡一く
ゆ国毎ノ高目をやうあんん
きくい者ちつい者いいきた
うやと四郎ちかうさうう
物ふ一かの三ヵ所の名も更
のまくうちくい郡名ありなぐ
郡名とつけ四ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ひ郡ノ内ノ者

ちかぐぬ郡ノ内ノ者と郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者で郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者
郡ノ内ノ者ノ内ノ者ノ郡ノ内ノ者

[illegible]
ふ君後の仕ひつゝ
て是明方暮さ
りじ君しくこうも
神去ゝ神ゝ春心
ミ[illegible]ふこゝ[illegible]
月の[illegible]と加
[illegible]と[illegible]
[illegible]業

の[illegible]
くこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
業で[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

心うけをきを思こゝろ用て
神明もとゝ祈の誓をこゝろ
いかゝよりうけ給ひとゝ右之如
ゞ春ゝの案よみ孝行
の徳ゝい鬼神のゝも感応
をもとゝ祈りあるべき所ゝ
少人も生涯をゝ仏陽祈ゝ
ゝ陽祈ゝゝ

[illegible]
まゝゝ仏魔ゞ明年修之
しゝゝゝも[illegible]
と同まゝゝ
御ゝ如ゝゝゝ
[illegible]
[illegible]

寺子の窮屈年(ゆう)教之文
附寺子師恩(しおん)受(うけ)まし
古人(こじん)のいはく三つ子の魂(たましい)百まで
ちぢかま(?)ず しつけ(?)あり(?)漂(あや)まりて
にくき(?)あしき(?)い風(ふう)をつとめ(?)のな
らん(?)学(さて)寺(?)師(し)の教(けう)
を(?)かく(か?)て父(じ)母(ぶ)の恩(おん)を贈(い?)
学(がく)しうしと(?)流(?)毎(まい)日(にち)勤(とく)めよ

筆(ふ)をとり(?)て(?)滞(ろう)なく(?)とも(?)天満(てんまん)
宮(ぐう)を祈(き)念(ねん)して(?)かの(?)伴(いばん)(?)がお
しへのとく(?)清(せい)(?)の二至(?)(そう)い(?)まで
一帖(てう)の巣(?)陽(ゆ)のたはまくらし
にけ父(ちち)の花(?)(まこと)(?)つおく(?)りて
きそうち(?)三(りやう)の(?)(ぶ)く(?)置(?)
取(かし)めし(?)(ごやく)(?)みてれは(?)何(か)(?)く
上(げう)(?)しきこ(?)も(?)とめ(?)(?)ば父(ちち)(?)

ちさうは懐ひ出しき枕を上け
心中には諸仏をきねんして心
よく咽おさまりたらんと存し御れ
あとおりの二帖をも二度拾ひ
せんじ付け広ひあつめ置きて
まびて定て付て包み候ひ
父も心よく三帖の薬をとめ
飲しくされ候しき

手付け候の不思議めづらふ夜の
思ひ之に心より存じつは大切
本懐なしく思のまゝしくに
大悦にぬりて目をとさ向して
祝しに思ひて定くしくと別
我とりござ若しく候うえ
若し卿も是よそうりさ向く
と外抱き候し心中に思ふゆへ

藥の效驗せ
ない間に
藥の治るとは
思はれぬ
もまた苦痛のふかくさ
とうもんの苦しみ
らうもむまた一時
てきこうい藥もさう
苦しみも降
しまい時

處ありしと濁を流して暁ふん
ゆるされど吉しみいしかま御あげれ
まちも知らつり家の心地して
踊りぬらくよろこひ桐生の
くまよ向ひて天満宮を拝し
さるば金性の列みとていのり
ゆる声も聊い百日の願しさ
ま通ひ田吉保嘉市へ案の

礼よりなしかるが見えより
一日しまし二日しまるまよ志てざむ
漸しう蕗紙を剥ぎしくされ
黒[illegible]も[illegible]ぬまよまつくく金性
とまり扇をたるあしかしるの欲
よろ庵吉なりて或しく毒り
向ひくゆゆらい我十成一生の
前ひくと卿なりしも新町の

男方にハ三両の金子を納し
是までもれいうことしたつて扱まい
今妹のもとへ一夜も来ず
きつしくい案じくらくへつい面会
まくおいりかはれど一両の内
相生へ気の毒しぶしや久よ
妻はまつてもぬして扱一両と
巻くまくろいち追なしを

酒へ新町をくやらあらわしう
いうう久まよこあろいた病ぬ
とまちし尖の今そろ中のみく
紙のゆく仏のうちらう
ふ富と茂しとしやけら。
こ助の銀の金子を借りよ新る
しとこと借てきしあてもたると
何りもあらりしがそ老の末

たりしよは信じがたしといへど
内らは南無阿弥陀仏ととなへ
まうしそこしよ称まつしく
果のつまよ清し八百やくつゐ
おしよちう命ひきしきて九
死一生の大病をうしよ仲吉
ごみうの経文にしまちまいし
よらしまでは観しは病苦まるがち

らまで寿命存しんりやしもふ令
そく天神観して病を平癒せし
のくりとやま劣もしまし三由
の理子真の因ある信さましる限。
生し世しのかな有縁にもとまかく
くまつとく大の理子まさく求めん
薬より鬼神いくし祈りのこしく
平癒にかぎるつたては大こあるの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの妹背をとらへて
んやうにかの妹背
をうらやましがる
新人をうらやま
しやうにうらやま
しがりて
ゆかしがりて
よろこばせ
ぬ者
なし

ゆかしい移おろぎ
とおんなのよめ
十三ばかりの小娘
ばけたるよりて
御ぶしをうつ
形ち
い利発よ生まれ
賢ふして性けれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
を責てのまの[illegible]
もふく形体[illegible]
ゞ心の形[illegible]
[illegible]と[illegible]
もの[illegible]の人の[illegible]
ものうちと考り[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

金閣寺の一条
[illegible]
[illegible]
[illegible]
父母の知や角おきんのゆう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
変[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
一命を保[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]高[illegible]
[illegible]

尾定

[illegible]羽[illegible]御家記巻六作

本屋殿
代價を[illegible]に渡
借[illegible]
吉本[illegible]
[illegible]